CONNECT
コネクト

下関市教育委員会　生涯学習課
社会教育主事だより　No.３
令和７年10月20日

下関市社会教育振興大会　９月２０日（土）菊川アブニールにて開催

社会教育振興大会は、２年に１度、社会教育関係者・市民が一堂に会し、市内外の実践から学んで今後の社会教育の推進につなげる大会です。今回の大会テーマは、**「社会教育を通じた『つながり・かかわり』～協力し合える関係づくり・持続的な地域コミュニティの基盤の形成を目指して～」**でした。当日は、約200名が参加しました。大会の様子を、ダイジェスト動画（２分２５秒）にしていますので、左の二次元コードを読み取ってご覧ください。

オープニング・アトラクションでは、本村小学校平家踊りを受け継ぐ子の会による平家踊り演奏を披露していただき、実践発表①（下関市立本村小学校　教諭　前田真奈美　氏）では、「平家踊りの伝統を受け継ぐ～コミュニティ・スクールの仕組みを活用して～」という題で、学校が地域の伝統芸能をつないでいる様子を発表していただきました。実践発表②では、下関市100人カイギ（代表　松山功　氏）に、下関で活躍する人が互いの活動を発表し、ゆるいつながりをもつことで、新たな一歩が生まれている様子を発表していただきました。

講演では、大正大学教授・東京大学名誉教授　牧野篤　氏に「『よきこと』をつむぐ、『よき存在』になる～『ふるさと』をつくる社会教育～」という題で、これからの社会教育の方向性や全国の実践について紹介していただきました。そして後半には、社会教育団体（伊藤直弥　氏）・女性（冨永順子　氏）・若者（日下まりあ　氏）の代表に加わっていただきパネルディスカッションを行いました。「どうすれば、まち（下関市）の肯定感をあげ、若者が社会教育に参加することができるか」話題があがりました。

大会途中には、参加者同士が自己紹介しあう「つながりタイム」、感じたことを共有する「わいわいタイム」をもちました。初めてお会いする方が多かったにも関わらず積極的にかかわりあってくださいました。人口減少・高齢化社会・先行きが見通しにくい時代の中で、学びをとおして市民がつながり・かかわり合い、お互いに助け合う持続的な地域コミュニティの基盤の形成を目指していきたいと思います。

オープニング・アトラクション

実践発表①

実践発表②

講演

パネルディスカッション